

各地で活躍する商人たち

北方開拓の先駆者 栖原角兵衛

元和5年（1619）、栖原村に入り漁業を始めた初代角兵衛から、明治28年（1895）に事業を終えた10代角兵衛まで、代々の当主が栖原（北村）角兵衛を名乗っていました。栖原に本宅を置き、房総半島から蝦夷、北方へと漁場を拡大していく中で、北方開拓に大きな影響を与えました。



栖原角兵衛屋敷

幕末の雄 菊池海荘

菊池海荘は、幕末の動乱期中、海の防衛の必要性を強く訴え、様々な建議をした人物です。栖原村に本宅があり、江戸で薬種商等を営む豪商の人で、栖原坂の改修や安政の地震津波の際の復興に尽力するなど、故郷の湯浅にも多くの投資を行いました。



施無畏寺 菊池海荘碑



海荘居士肖像

須原屋茂兵衛

江戸・日本橋で、千鐘房（須原屋）という書店（出版元）を営み、代々、須原屋茂兵衛を名乗って、江戸きっての有力な版元として多くの出版物を手がけました。伊能忠敬が全国を歩いて測量をした際、親交のあった茂兵衛の栖原の家に宿泊したということです。

また暖簾分けをした出店のひとつ、須原屋市兵衛は『解体新書』の版元としても知られています。

